

SCATT (WS1:無線タイプ) のバッテリー交換



SCATTの電池の持ちが極端に悪くなってきたので、内蔵バッテリーの交換を行いました。

ウクライナ紛争の影響でSCATTのサポートが大幅に遅延しており、大変お困りの方も多と思われるので、DIY派の方の参考になれば幸いです。

なお、SCATTは精密機械につき、作業は自己責任で行っていただくようお願いいたします。

STEP1 内蔵装置の取出し



本体の内ネジの切欠き部分（矢印）を回す

左のような工具を自作し、本体の内ネジ部分を慎重に回す。この部分が作業中で最大の山場。

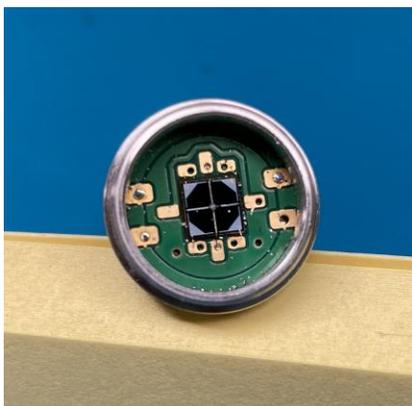
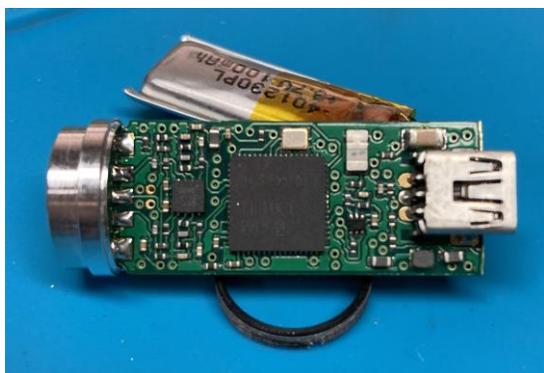


※工具の幅は15.5mmで内ネジの切欠きにピッタリ合うように製作。SCATT本体の素材がアルミニウムなのでネジ山を潰さないように慎重に作業する。

私の場合はSCATT使用中に何かにぶつけて本体の外環が変形し内ネジが潰れていたため、変形部分をカットして作業を進めた。



- ・写真の一番左の内ネジの輪っかを外すと、左から2番目のプラスチックレンズが外れる。
- ・次に、左から3番目の円筒の内ネジを同様に回して外す。
- ・奥に本体装置が収納されているので、**SCATT**本体の反対側から指で本体装置を押し出して外す。



STEP2 バッテリーの交換



取り出したバッテリー（写真上）は劣化が進んで大きく膨張しているので、新しいものに交換する。



リチウムポリマーバッテリーの品番は「401230」3.7 v 100ah。同等品（写真下）をAmazonにて購入。

※コネクターの形状に注意して注文したものの微妙にサイズが合わなかったので、既存のコネクターの端子を差し替えて使用した。

STEP2 組立・動作確認



取出し時と逆の手順で本体装置を戻し、レンズ・内ネジを回して固定する。

SCATT本体から赤外線が出ていることをスマホのカメラ（赤外線）で撮影して確認。

最後に、SCATTの標的装置をセットして問題なく作動することを確認する。

※写真はiPhone自撮りカメラ（内側カメラ）で赤外線の点滅（紫色）を撮影。